

楽しく

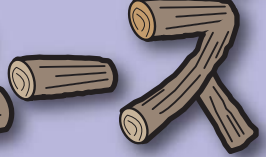
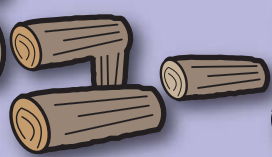
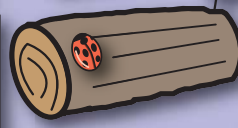
学ぶ

見て

徳島県立博物館

Museum News

No. 77

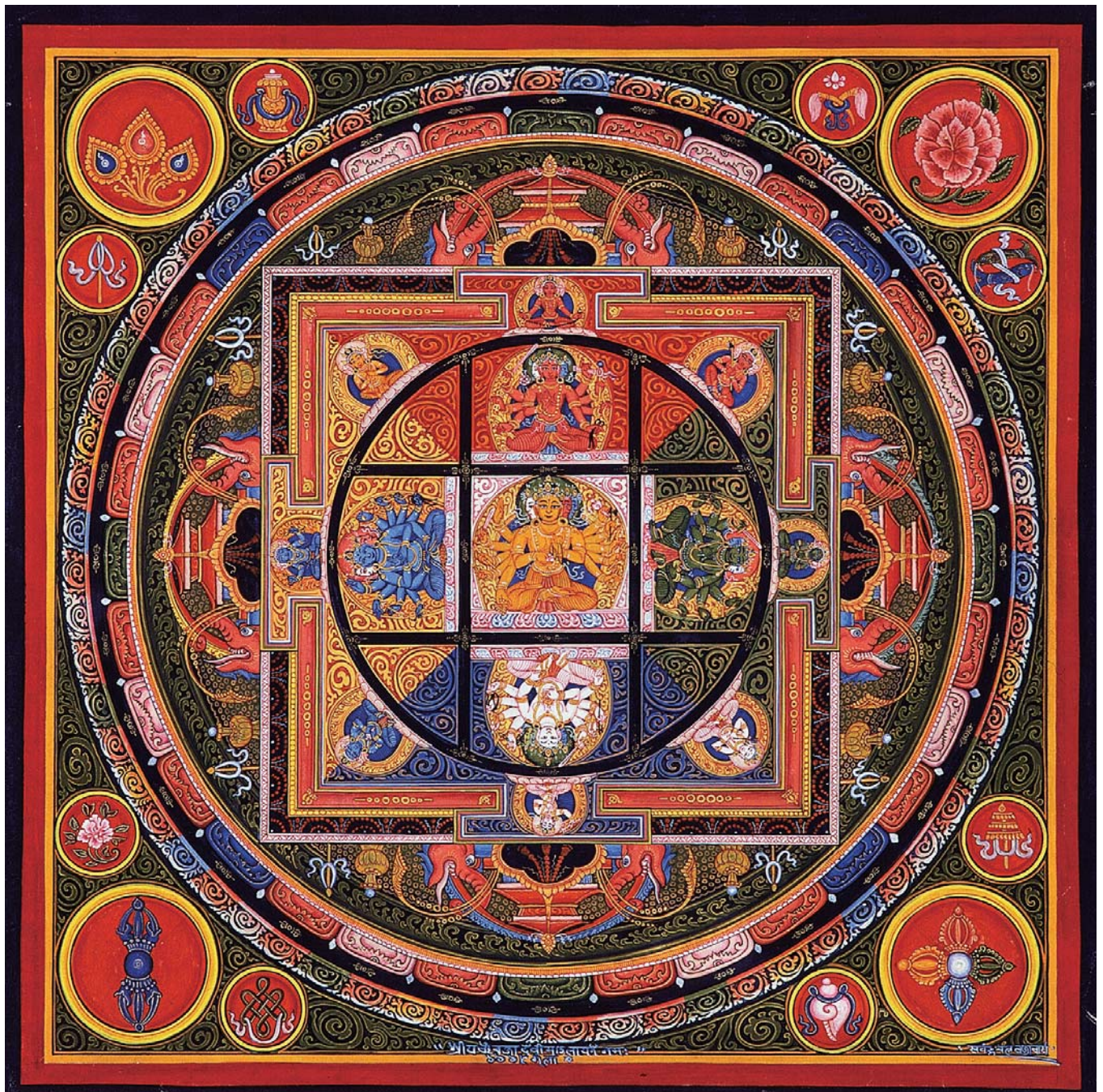


博物館

はく

ぶつ

かん



ここだらに 五護陀羅尼マンダラ (国立民族学博物館蔵)

ネパール 63.0cm×63.0cm

だらに とは じよざい しよふく とを じゆじゆつてき みっきやう しん かく か めがみ
陀羅尼とは除災や招福などのために唱えられる呪術的なことば。密教では陀羅尼が神格化され、女神の姿をとる。このマンダラは五種の陀羅尼の女神を中心に構成され、インドやネパールで流行した。

Culture Club

探してみよう!!

藍商人活躍の足跡

庄武 憲子

徳島は、江戸から明治時代にかけて、染料「藍」の産地として全国に名をはせました。

徳島で藍の生産が盛んだった理由には、度々洪水がおきる、稲作には不利な土地であったことがあげられます。人々は、この吉野川流域に努力と苦勞を重ねて、原料となるタデアイを栽培し、染料に加工してきました。

このほか、徳島の藍が全国市場の優位を占めるようになった背景には、徳島の藍商人の積極的な活動がありました。藍商人は、江戸（東京）、大坂（大阪）などの大消費地をはじめ、全国各地に売場株という制度と組織を置き、徳島産の藍を売り込み、販売網を広げていました。こうしたかつての藍商人の活躍ぶりを、現在私達は、意外に身近なところで確認することができます。

例えば、徳島市勢見町の金刀比羅神社の入口には、大きな常夜燈があります。そこには「御国産藍玉大阪積」の大きな文字を見ることができます（写真1）。天保（1830～1843年）の頃（写真2）、徳島の藍商人が寄進したもので、大阪に徳島産の藍が積み出されていたことを一目で確認することができます。

また、徳島市川内町宮島の金刀比羅神社にある常夜燈には「豊前豊後組」（写真3）、「藍屋中」（写真4）の文字が記され、現在の福岡県、大分県方面に藍を売り出す藍商人仲間がいたことがわかります。また、同神社の玉垣には「播三丹州藍屋中」（写真5）「播州売行司中」（写真6）などと刻まれたものもあり、藍商人が現在の兵庫県から京都府にかけて足を伸ばしていたこともわかります。



写真1 徳島市勢見町金刀比羅神社の常夜燈

離れた場所からでも「御国産藍玉大阪積」の文字を確認することができます。

普段目しているものの中に、いろいろな意味がふくまれているんだね。

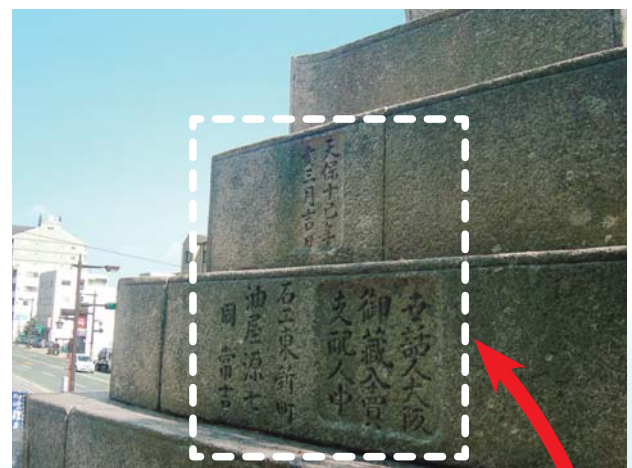


写真2 徳島市勢見町金刀比羅神社の常夜燈の側面

「天保十己亥年（1839）三月吉日」
「世話人 大阪御蔵入売支配人中」
「石工 東新町 油屋源七 同常吉」の文字が見え、常夜燈が建立された時期、常夜燈を寄進した藍商人仲間、建立にたずさわった石工が推察されます。



写真3 徳島市川内町宮島金刀比羅神社の常夜燈
正面に「豊前豊後組」の文字が見えます。

これらの常夜燈や玉垣は、徳島から海を渡り各地へ進出していった藍商人が、商売繁昌や海上安全を願うため寄進したものとされています。徳島の藍商人の全国展開の足跡は、県内だけではなく、京都の八坂神社、大阪の住吉神社などにも残っています。

あなたがお住まいの近くの神社などにも、かつての徳島の藍商人の足跡が、残っているかもしれません。機会があったら調べてみて、新たなる発見に挑戦してみませんか？ (民俗担当)

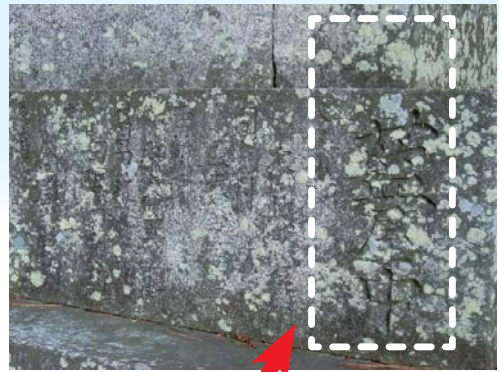


写真4 徳島市川内町宮島 金刀比羅神社常夜燈の側面
「藍屋中」の文字があり、組織に属していた藍商人の氏名が列記されていると思われます。



写真6 徳島市川内町宮島 金刀比羅神社の玉垣
「世話人 播州賣行司中」の文字が見えます。



写真5 徳島市川内町宮島 金刀比羅神社の玉垣
玉垣の下部に「播三丹州藍屋中」の文字が見えます。

※藍商人活躍の足跡について、もっと詳しく知りたい場合には、次の本が参考になります。
三木與吉郎編 1963年
『阿波藍譜 史話圖説編 (増補版)』 三木産業株式会社刊

マンダラ

チベット・ネパールの仏たち



法界語自在マンダラ
(ネパール王国)

2009年12月12日(土)~2010年2月7日(日)

【主催】文化庁・国立民族学博物館・徳島県立博物館・
(財)千里文化財団・徳島県民文化祭開催委員会

【会場】博物館企画展示室

【休館日】毎週月曜日〈ただし、1/11(月・祝)は開館、1/12(火)が休館〉
年末年始〈12/28(月)~1/4(月)〉

【観覧無料】

マンダラは、約1500年前にインドで生まれ、ネパール、チベット、中国、そして日本にも伝えられました。仏教美術としてはよく知られていますが、本来の役割などはほとんど知られていません。

この展示では、多くの国立民族学博物館所蔵品を通して、「マンダラとは何か」を知っていただくことができますでしょう。マンダラが持つ不思議な魅力をご堪能ください。



ヘーヴァジュラ像
(中華人民共和国 チベット自治区)



もんじゅぼさつ
文殊菩薩像
(ネパール王国)



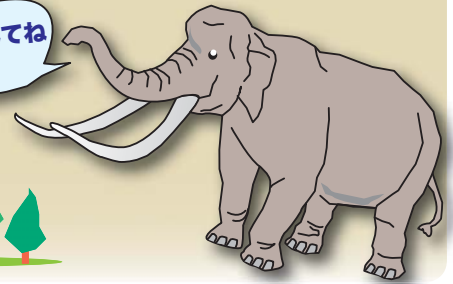
人体チャクラの図
(中華人民共和国 チベット自治区)

Q

動物の化石のオス・メスを見分けることはできますか？

& A

キバをみてね!!



今も生きている種や、例外的に条件のよいケース（氷づけのマンモスなど）を除けば、一般には難しいといって良いでしょう。生殖器など性別をはっきり示す組織が化石として残りにくいからです。しかし状況証拠から、オス・メスを推定できる場合もあります。ここでは、国内で初めて性差（オスとメスとの違い）が明らかになった脊椎動物であるナウマンゾウを取りあげましょう。

今も生きているゾウには、アジアゾウとアフリカゾウがいます。どちらもオスは、メスより長く太いキバ（切歯）を持っています。ナウマンゾウの場合も、まずキバの違いでオスとメスとが識別できないかどうか検討が行われました。その結果、成長した個体では、オスのキバは太くて長くねじれが強いのに対し、メスのキバは細く短くまっすぐであることがわかってきました。オスと考えられている個体（図1）とメスと考えられている個体（図2）のキバを比べてみると、違いがよくわかります。また、その後の研究で、キバ以外にも頭蓋（頭の骨）や上腕骨（腕にあたる前足の骨）にも性差があるとされています。

ナウマンゾウの場合、近縁な現生種がいて、そこから得られた情報がオス・メスの識別に役立ったといえます。また、ナウマンゾウは国内でもたくさん出てくるゾウ化石で、研究がすすんでいることも、オス・メスの違いがわかるようになった大きな理由です。

（地学担当：中尾 賢一）



図1 忠類標本。北海道産。（当館蔵）



図2 浜町標本。東京都産。
（愛媛県総合科学博物館蔵，許可を得て撮影，掲載）



図3 鳴門海峡海底から得られたナウマンゾウの切歯化石。細いものと太いものとがあり、性差を示している可能性が高い。スケールの目盛りは2cm。

さらに詳しく知りたい方に
亀井節夫編著. 1991. 日本の長鼻類化石. 築地書館
北川博通. 2009. 日本古生物学会第157回例会予稿集.
<http://www.soc.nii.ac.jp/psj5/>

タヌキ

狸顔のケモノたち



タヌキは人里近くにすむイヌ科の中型の哺乳類です。

徳島県ではもっともなじみの深いケモノの一つです。たくさんの伝説や民話に登場したり、狸大明神として信仰の対象にもなっています。でも、実際にその姿に接し、その顔をよく見たことのある人は、意外に少ないかもしれません。ふくよかだとぼけた顔の人を、俗に狸顔といいますが、ケモノの中でもタヌキとよく間違えられるものがあります。

今回は徳島県に生息する狸顔のケモノたちをご紹介します。いずれもネコ目（食肉目）に属し、昆虫やネズミなど小型の動物を主体とした雑食性です。
(動物担当：佐藤 陽一)

タヌキ



イヌ科のケモノで、シベリアからベトナム北部まで分布します。日本には北海道にすむエゾタヌキと本州・四国・九州にすむホンダヌキの2亜種がいます。共同トイレ(ため糞場)を利用します。

ハクビシン



ジャコウネコ科のケモノで、本来の分布域はチベットやインド、東南アジアから中国南部にかけてです。日本では1940年代に静岡県で確認され、現在では本州中部以西と四国では普通に見られます。木登りが得意で、ミカンなど甘い果実も大好きです。

アナグマ



イタチ科のケモノで、ユーラシア大陸北部～中部にかけて分布します。日本では本州・四国・九州に分布し、北海道にはいません。穴掘りが得意で、長いトンネルを掘ってくらします。タヌキと共にムジナ・マミなどと呼ばれることもあります。

アライグマ



アライグマ科のケモノで、本来の分布域は北～中央アメリカです。日本へはおもにペットとして持ち込まれ、各地で野生化しました。徳島県でも1994年に鳴門市で初めて確認されました。農作物を食害するだけでなく、他の小型鳥獣を食べたり、タヌキなどの在来のケモノとエサやすむ場所をめぐる競合します。また、人や他の動物に感染症をもたらすおそれがあります。

狸顔のケモノたちを展示します!

部門展示 「里山のケモノ—狸と狐—」
 会 期 2009年12月1日(火)～2010年2月14日(日)
 休 館 日 毎週月曜日(ただし、1/11(月・祝)は開館, 1/12(火)が休館)
 年未年始(12/28(月)～1/4(月))
 会 場 博物館常設展示室内 部門展示室(2階)
 展示解説 2010年1月11日(月・祝)・2月14日(日)
 14:00～14:30

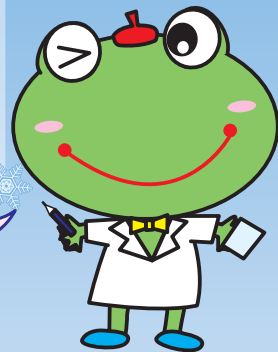


冬越しする昆虫をさがそう!



体温調節ができない昆虫たちは、寒くなると自分たちの体温が下がってしまい、体の動きにもぶくなってしまいます。そのため、昆虫たちは、さまざまな工夫をして厳しい寒さを乗り越えるわけです。どのような昆虫がどのような場所で、どのような状態で冬を越すのかは決まっており、それらの様子は、人家の周辺や田んぼの周りなど意外と身近な所でも見ることができます。

(動物担当：山田 量崇)



チョウのさなぎは周りの色と似ているね。

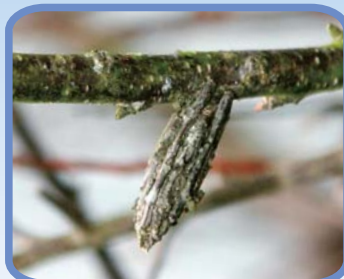
ミノムシも種類によって形や大きさがくっつき方が違うね。

さなぎの色は保護色として役に立っているんだよ。

ミノムシはミノガ科のガの幼虫のことだよ。



オオミノガ。ミノには葉をよく付けます。枝の真下にぶらさがります。



チャミノガ。ミノには小枝をたくさん付けます。枝に対して約45度の角度でしっかりとくっつきます。



ナミアゲハのさなぎ。トタン板と同じ色をしています。



モンシロチョウのさなぎ。体の色がトタン板のサビのようです。



ハラビロカマキリの卵のう。よく見かけるカマキリの卵のうの一つです。



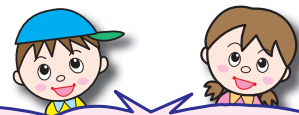
ゴマダラチョウの幼虫。エノキの根元の落ち葉や石の下にいます。



ナガサキアゲハのさなぎ。体の色が木の幹とそっくりです。



イラガのまゆ。卵の殻のようですが糸でつづられた繭です。



1月から3月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史体験	トンボ玉をつくろう②	1月24日(日)	13:30~16:30	要	高校生以上(20)	材料費100円(大学・一般)
	古代の乳製品をつくろう	2月7日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(20)	
	石オノを使ってみよう	3月21日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(10)	
歴史散歩	国府町歴史ウォーク	3月28日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
室内実習	冬の樹木と昆虫ウォッチング	1月31日(日)	13:00~15:00	要	小学生から一般(20)	
	ミクロの世界—電子顕微鏡で化石を見よう!	2月14日(日)	10:00~12:00	要	小学校高学年以上(10)	
	アンモナイト標本をつくろう	2月21日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	材料費300円(大学・一般)
	落ち葉の中の生きものたち	3月14日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	姫島産黒曜石の移動	1月17日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	徳島の祭りを映像で楽しもう	3月7日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
部門展示関連行事	部門展示「里山のケモノ—狸と狐—」展示解説①	1月11日(月)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料無料(祝日につき)
	部門展示「里山のケモノ—狸と狐—」展示解説②	2月14日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「絵画に見る中世」展示解説	2月28日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。 ◎部門展示の展示解説は、常設展観覧料が必要です(高校生以下は無料)。

ボランティアスタッフがお贈りする 博物館Vキング



博物館Vキング

日時：2010年2月11日(木・祝)
9時30分~16時
会場：博物館2階 常設展示室

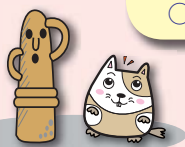
催し物(予定)

- ピンホールカメラ
- りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく
- 展示室人物クイズラリー
- 恐竜の立体模型づくり
- オリジナルクリアファイルづくり
- 昆虫コスプレ遊び

楽しい催し物が
いっぱいじゃ!



子どもたちも、大人も楽しく
見て聞いてふれて学べます。



博物館友の会 行事のご紹介

2009年9月、友の会行事「播磨・淡路日帰り研修の旅」を行いました。会員41名の方が参加し、有意義な研修旅行となりました。

<研修先>

- 北淡震災記念公園・野島断層保存館
- 兵庫県立考古博物館・大中遺跡 ○鶴林寺



鶴林寺太子堂

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきには、1行事だけにしてください。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で下記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

希望の行事を選んでね。

往復はがき記入例

(往信の表面)	(返信の裏面)	(返信の表面)	(往信の裏面)
〒770-8070 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないで ください	あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号



※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ(電話 088-668-3636)